

# 藻場造成試験

当真 武

## 1. 目的

本試験費は現場で造成試験をするには予算規模が小さいため、本試験研究では「沿整基礎調査」<sup>1-4)</sup>とあわせてホンダワラ藻場<sup>7)</sup>と海草藻場の分布状況と島地形と海底地形及び冬期季節風の風向等との関係に焦点を当て、藻場造成に必要な基礎資料を収集する。分布状況と地形などの関係を補完する資料として、海草類の開花・結実期<sup>5)</sup>、ヒジキ<sup>7)</sup>、フトモズク<sup>9)</sup>、イワノリ<sup>10, 11)</sup>について調査してきた。

食用紅藻ハナフノリ（地方名フヌイ）<sup>12)</sup>の生育分布南限は沖縄島・久米島付近にあること、生育量は沖縄島北部地方の飛沫帯に多く、生育のピークが3～5月にあることが分かった。藻場の概要は各年度の水試事業報に報告したが、各地域の海底地形と海草藻場の垂直分布や種類別の詳しい特徴についてはまとめ中である。海草類についての知見はかなり蓄積されてきた。なお、研究成果の一部は学会報告<sup>8, 9, 11)</sup>した。

## 関連成果報告

- 1) 当真 武・渡辺利明・勝俣亜生・久保弘文・平安名盛正・中田幸孝（1990）伊江島・水納島礁池内の海底地形と藻場及び有用動物について。昭和63年度沖縄水試事報、159-163.
- 2) 当真 武・玉木俊也・具志堅剛（1991）沖縄島および周辺離島の海草・ホンダワラ藻場について。平成元年沖縄水試事報、138-147.
- 3) 当真 武・島袋新功・佐多忠夫・具志堅剛・近藤忍（1992）久米島と慶良間諸島の礁地形と藻場。平成2年沖縄水試事報、141-150.
- 4) 当真 武（1993）八重山・宮古諸島の海草藻場・平成3年沖縄水試事報、117-129.
- 5) 当真 武（1993）琉球列島産海産顕花植物（アジモ）の開花・結実期と2・3の知見Ⅱ。平成3年沖縄水試事報、130-141.
- 6) 当真 武（1990）海洋生物の生態観察ノート（4）、リュウキュウスガモ（トチカガミ科：リュウキュウスガモ属）の発芽。沖縄生物学会誌、(23) 35-37.
- 7) 当真 武（1993）沖縄島におけるヒジキの分布と季節的消長。平成3年沖縄水試事報、105-116.
- 8) 当真 武（1991）宮古島で確認された大規模ホンダワラ藻場。水産増植、39(1) 47-54.
- 9) 当真 武（1993）琉球列島における褐藻フトモズクの地理的分布。水産増植、41(3) 293-297.
- 10) 当真 武（1990）沖縄・宮古諸島の紅藻イワノリの生育状況。昭和63年沖縄水試事報、119-126.
- 11) 当真 武（1992）イワノリ類の分布に及ぼす沖縄島地形と冬期季節風および日照度の関係。日本藻類学会第16回大会講演要旨、30.
- 12) 当真 武（投稿中）紅藻ハナフノリの沖縄諸島における季節的消長と地形的・地理的分布